

除草剤グリホサート耐性ワタ GHB614 系統、除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ T304-40 系統並びに除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ GHB119 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種に係る食品健康影響評価について

### 1. 経緯

遺伝子組換えワタ「除草剤グリホサート耐性ワタ GHB614 系統、除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ T304-40 系統並びに除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ GHB119 系統からなる組合せの全ての掛け合わせ品種」については平成 25 年 7 月 9 日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請があったことから、食品安全基本法（平成 15 年法律第 48 号）第 24 条第 1 項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

### 2. 評価依頼品種の概要

本品種は下の表の遺伝子組換えワタを伝統的な育種の手法を用いて掛け合わせたものである。

項目	概要		
品種	除草剤グリホサート耐性ワタ GHB614 系統	除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ T304-40 系統	除草剤グルホシネート耐性及びチョウ目害虫抵抗性ワタ GHB119 系統
製品の概要	2mepsps 遺伝子の導入によって 2mEPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサートに耐性を示す。	改変 bar 遺伝子の導入によって改変 PAT タンパク質が発現し、除草剤グルホシネートに耐性を示す。また、改変 cry1Ab 遺伝子の導入によって改変 Cry1Ab タンパク質が発現し、チョウ目害虫（アメリカタバコガ等）に抵抗性を示す。	改変 bar 遺伝子の導入によって改変 PAT タンパク質が発現し、除草剤グルホシネートに耐性を示す。また、cry2Ae 遺伝子の導入によって Cry2Ae タンパク質が発現し、チョウ目害虫（アメリカタバコガ等）に抵抗性を示す。
宿主	ワタ ( <i>Gossypium hirsutum</i> L.)		
挿入遺伝子 (供与体)	2mepsps 遺伝子 ( <i>Zea mays</i> L.由来)	改変 bar 遺伝子 ( <i>Streptomyces hygrosopicus</i> 由来)  改変 cry1Ac 遺伝子 ( <i>Bacillus thuringiensis berliner</i> 1715 由来)	改変 bar 遺伝子 ( <i>Streptomyces hygrosopicus</i> 由来)  Cry2Ae 遺伝子 ( <i>Bacillus thuringiensis</i> subsp. <i>dakota</i> 由来)
抗生物質耐性マーカー遺伝子 (供与体)	含まれていない	含まれていない	含まれていない
新たに獲得された性質	除草剤グリホサート耐性	除草剤グルホシネート耐性 チョウ目害虫抵抗性	除草剤グルホシネート耐性 チョウ目害虫抵抗性
安全性審査を経た旨の公表 (官報告示日)	2010 年 1 月 21 日	官報掲載手続き中 (2013 年 6 月 24 日開催第 480 回食品安全委員会にて食品健康影響評価済み)	2012 年 7 月 10 日

### 3. 利用目的及び利用方法

本品種の食品としての利用目的や利用方法は、従来のワタと相違はない。